当会会員の（株）ダイナックス（千歳市）が、平成31年3月1日(金)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

クラッチ板 北海道に新工場

ダイナックス社長 秋田 幸治 氏

EV用モーター生産視野

クラッチ部品を得意とするダイナックス（北海道千歳市、秋田幸治社長、0123・24・3247）が、事業強化と新ビジネスの拡大に備え工場を建設する。2021年春に北海道苫小牧市の社有地で自動車のクラッチ板の工場を稼働する予定。同工場で電気自動車（EV）向けのインホイールモーター生産も視野に入れる。ダイナックスの秋田幸治社長に工場建設の狙いや展望などを聞いた。

◇　◇

―北海道・苫小牧に新工場を建設します。

「クラッチ板の受注拡大を見込み、生産面で備える。近い将来、受注の可能性があるインホイールモーターの生産スペースも確保する。2万平方㍍の土地に約1万8000平方㍍の建物を建てる」

―投資額は。

「総投資額は145億円程度を見込む。建物と生産設備が主だが一気にその金額が必要なるわけではない。まず建物を建て、受注が決まれば随時、設備を導入する」

―インホイールモーターの生産は、10億円を出資するEVベンチャーのFOMM（フォム、川崎市幸区）向けを予定しています。

「出資はEV事業への〝入場券〟だ。インホイールモーターの生産時期はまだ決まっていない。生産開始にはきちんと詰めて契約する必要がある。その調整を行っている最中だ。クラッチ板に比べて単価が高く、決まれば大きなビジネスになる」

―量産規模は。

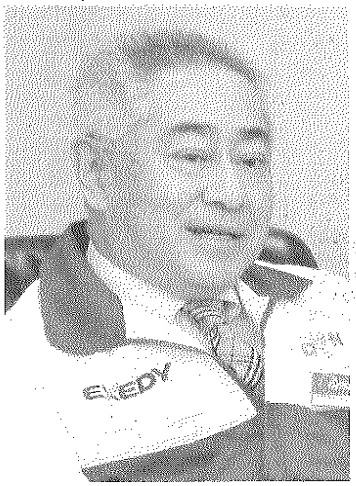
「受注が確定していないので明確には言えない。目安として、クラッチ板であれば1ライン月産40万枚、インホイールモーターは1ラインで年間5万―10万個ぐらいになる。受注規模によって生産数は変わる」

―クラッチ板需要の将来見通しは。

「当社がシェア100%を占めていない。そう考えると中長期的に売り上げを伸ばすことができる。EVが増えても車全体の総需要が増えるという予測もあり、まだまだ拡販できる余地がある」

―海外生産の展開状況は

「中国2拠点とハンガリー、米国、タイ、メキシコで生産している。現時点でこれ以上生産拠点を増やす予定はない。ただ受注状況によりハンガリーを拡張し、中国の国内向け拠点を増強する」



記者の目

新ビジネス可能性に布石

クラッチ板大手として、自動車メーカーと〝全方位外交〟を展開するダイナックス。クラッチ板の需要拡大を見込んでおり、生産体制を強化するなど、好調を維持している。インホイールモーターについては必ずしもEVの主流ではないが新たなビジネスの大きな可能性を秘める。将来の既存車両の需要とEV化の流れをにらんで、着実に布石を打っている。

（札幌支局長・村山茂樹）